

私たちの留学体験記

短期語学研修に参加して

国際コミュニケーション学部3年
鍋本 彩

今日、英語が共通言語として世界中で使用されていることは大変興味深いことです。私は大学に入ってからその世界の共通語としての英語を深く研究したいと思い、これまでの2年半勉強に取り組んできました。

そして今回イギリスで1ヶ月実際に暮らしてみても学んだことは、「積極性」の大切さです。思ったことを口に出すことは勇気が要りますし、なおさら母語ではないと微妙なニュアンスも伝わり難くなり、お互いの意思疎通は簡単ではありません。しかし、「積極性」を持つことは、コミュニケーションを円滑にする近道なのです。

ホームステイ初日に、日本のお土産を持っていったことをきっかけに日本の文化や習慣を英語で伝えました。その時相手が興味を示してくれたことがとても嬉しく、つたない英語で話が伝わることの喜びを感じました。また、私はイギリスのことはおろか、自国のことさえ英語でうまく話せないのだと気付くことができ、勉強の意欲向上にも火が付きました。そして私はホストマザーと話すことが一番良い勉強法だと気付き、1か月間彼女との会話に没頭しました。お互いに料理が趣味だったので毎日夕食とデザートと一緒に作り、彼女の英語を真似て、寝る前には料理についての単語などを勉強し続けていると、最後にはお互い冗談を言い合えるほ

ど会話がスムーズになりました。このように私は自分の時間よりもホストマザーと過ごす時間を優先し、それによって私には今、ホストマザーから教わった生きた英語が根付いています。



外国語でコミュニケーションを取ることは簡単ではないし、躊躇することも当たり前ですが、私はそれを乗り越える努力をすればそこから英語能力が伸びる可能性は十分にある、ということ学びました。この体験はこれからの私の勉強の糧になるだろうと確信しています。そしてこの経験を通して生まれた発見は、残る1年半の大学生活の過ごし方を決める鍵になったと思っています。この貴重な体験をすることができた周りのすべての人への感謝を忘れずに、これからも努力を続けたいと思います。

ドイツ留学体験記

国際コミュニケーション学部4年
横井仁美

私は、2年次に1年間、ブレーメン州立経済工科大学に留学しました。初めの頃は、まだドイツ語が全く話せず分からなかったのですが、パン